

「今後の地球環境研究の在り方に関する検討会」での 検討状況について

座長：江守 正多
平成26年5月30日

1. 設置の趣旨

- 気候変動による自然災害リスクの増大等、地球環境が直面する複雑な諸問題への対応は、我が国のみならず世界にとっても喫緊の課題。
- 文部科学省では、地球環境の現状把握や気候変動への適応の観点から、地球観測や気候変動予測、データ統合・解析に関わる研究開発等を実施。
- 現在、政府内では、気候変動に対応するための適応計画の策定に向けた議論が開始。
- 国際的にも新たな地球環境研究の枠組み「フューチャー・アース」構想の構築に向けた取り組みが進捗。
- こうした状況を踏まえ、今後の地球環境研究の推進の在り方について検討するため、文部科学省において、「今後の地球環境研究の在り方に関する検討会」を設置。

※ 設置期間：平成26年3月27日～検討事項の終了まで

(参考)検討会構成員

	氏名	役職
	市橋 新	公益財団法人東京都環境公社東京都環境科学研究所調査研究科主任研究員
	岩谷 忠幸	NPO法人気象キャスターネットワーク副代表・事務局長
◎	江守 正多	独立行政法人国立環境研究所地球環境研究センター温暖化リスク評価研究室長
	三枝 信子	独立行政法人国立環境研究所地球環境研究センター副研究センター長
	重藤 さわ子	国立大学法人東京工業大学グローバルリーダー教育院特任准教授
	柴崎 亮介	国立大学法人東京大学空間情報科学研究センター教授
	関 正雄	株式会社損害保険ジャパン 理事・CSR部上席顧問
	高橋 桂子	独立行政法人海洋研究開発機構地球情報基盤センター長
	高村 ゆかり	国立大学法人名古屋大学大学院環境学研究科教授
	手塚 宏之	JFEスチール株式会社技術企画部理事・地球環境グループリーダー
	中野 伸一	国立大学法人京都大学生態学研究センター長・教授
	三隅 良平	独立行政法人防災科学研究所観測・予測研究領域水・土砂防災研究ユニット 総括主任研究員
○	安岡 善文	国立大学法人東京大学名誉教授
	渡部 雅浩	国立大学法人東京大学大気海洋研究所准教授

◎:座長、○:座長代理

※役職は平成26年4月10日現在、50音順、敬称略

2. 検討会での主な議論

気候変動への適応に向けた研究開発

- 国が実施した気候変動に関する最先端の研究開発の成果を「出口」へと着実に導くための戦略的なシステム設計(人材育成を含む)の必要性
- 研究者、自治体に加え、企業等を新たにプレイヤーとして加えた研究体制の構築
- 地球観測や地球環境予測等の基盤的プログラムの重要性の再確認(ニーズに応じた重点化は必要)

「フューチャー・アース」構想の推進

- 我が国の技術・経験の活用とシステム設計の重要性
- 得意分野への資源の集中的投下の必要性

データ統合・解析システムの長期運用

- 自立的な運用に向けた利用者像の明確化と利用支援体制の構築
- 我が国にとって重要な情報の収集・創出・公開に関する戦略の必要性